

【特集】

いつも新しい「古典」 の楽しみかた

国際コミュニケーション学部
吉本 篤子



「古典」=古い本、だけじゃない！

皆さんは「古典」に対してイメージをもっているだろうか。古い？とっつきにくい？読む価値がある立派な本？役に立たない？古典とはどんな本で、どんなふうを読むと楽しめるのだろうか。

思想史家の藤田省三は、古典を以下のように説明している。

『「古典」とはシチュエーションを変えて読んでも新しい「意味」を発見してゆく本、あるいは発見してゆける本のことだ。単に『古い』から『古典』と言うのではない。人間にとって、変わらぬ規範や意味の世界を持ち続け、またそれをどんなシチュエーションになっても提出し読み取れるからこそ、人間にとっての『古典』と云うる。』

いつの時代でも、どんな人々が生きている世界でも、変わらない意味を表現できる作品が古典である、と言っているのだが、このことを示す例がある。アメリカのある高校での教育についての実話『フリーダム・ライターズ』のなかで、国語教師ブルーウェル先生が生徒たちに『ロミオとジュリエット』を読ませたときのことである。「そなた」とか「汝」なんていう古臭いことばを使う「タイツをはいたおじさん」（シェイクスピアのこと）の書いた大昔の物語が、読み進めるうちに貧困や虐待、ギャング抗争など切実な問題をかかえた生徒たちの日常と重なってくる。ある生徒は作中の家同士の争いと地域のギャングの争いを対照するうちに、これらの争いが無意味だと考えるようになった。別の生徒は、親から反対された彼氏との交際を作品に重ねあわせ、自分はジュリエットと同じように若くて考えなしだった、と気づいた。物語と自分の人生の共通性に気づくことによって、生徒たちは物語を夢中になって読むようになった。このように時代を超えて読み手に伝わる意味のある世界をもっているのが古典なのだ。

どのように読む？——クリティカル・リーディングのすすめ

自分の境遇と重ねあわせる方法は、古典を楽しむ読み方の一つだ。しかし、哲学的な古典のなかには抽象的でわかりにくいものもある。こうした作品はどのように読むことができるのだろうか？

いつも新しい「古典」
の楽しみかた

先に紹介した藤田は、「読み方として大切なことは、むしろ一つ一つパラフレーズして読み碎いて、読むことが必要になる」とも言っている。古典のなかでも物事の典型的な特徴を抽象的に要約しているような文章は「文章の行間に隠された事実をとらえることを通して、（略）抽象的な文字を理解していくことが大切」というのだ。

こういう読み方のことをクリティカル・リーディングともいう。音楽評論家としても知られる政治思想史研究者の片山杜秀は、動画「クリティカル・リーディングのやり方」(<https://www.youtube.com/watch?v=UuDaIE0MtiE>)のなかで、文章をそのままに読むのではなく、ことばを足したり言い換えたりして読み方に工夫を重ねていくことが必要だと述べている。古典の抽象的な文章で用いられる概念や専門的な用語は、様々な具体的な事象のある特徴について抽象度を高めて説明している。文章を読みながらそのつど、これはどういう具体的な状況のことをさしているのだろうか、と私たちの知識や他の本の情報などから具体例を考えることによって、抽象的でわかりにくい文章もより明確に見えてくるようになる。私たちの認識が鮮明になり、深くなる瞬間だ。100年前の文学者のことばも、1000年前の哲学者のことばもまた、私たちの生きる現代に生きる世界をあらわしているのが見えてくる。

その際に必要となるのは、何度も読み返して試行錯誤しながら自分のことばで説明しようとすることだ。こうした読み方を身につければ、難解に思える表現からでも、私たちの人生や世界に関する見方が広がってくるだろう。のちに読み返すと、それまでに経験したことによって、以前に読んだときと見え方が変わってくることも多い。だから古典は古いけれど読み返すたびにいつも新しいのだ。その楽しさをぜひ味わってほしい。

図書紹介

<文中で引用した本>

- ① 藤田省三「語る藤田省三」岩波現代文庫、2017（名図文庫 080:1953:G363）：
藤田が研究会で話したことをまとめたものも収められている。
鷗外、尾崎、ジョイス、ベケットなどの作品についても語っている。
- ② エリン・ブルーウェルとフリーダム・ライターズ「フリーダム・ライターズ」講談社、2007
（豊図開架 376.4:G89）：古典を含めた読書や書くことが、高校生たちの人生を変えた実話。



①



②

<そのほか、古典を読むことに関する推薦書>

- ③ 内田義彦「読書と社会科学」岩波新書、1985
（豊図書庫 #019:32、名図文庫 080:1952:c288）
- ④ イタロ・カルヴィーノ「なぜ古典を読むのか」みすず書房、1997（名図開架 904:C13）
- ⑤ イヴァン・イリイチ「テクストのぶどう畑で」法政大学出版局、1995
（豊図書庫 019:I39、名図開架 019:I39）
- ⑥ 西郷信綱「古典の影」平凡社ライブラリー、1995
（名図開架 914.6:Sa18、豊図開架 914.6:Sa18）
- ⑦ 長田弘「読書からはじまる」NHKライブラリー、2006（名図開架 019:O72）



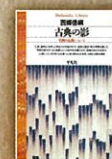
③



④



⑤



⑥



⑦